

# 減災力のあるまちづくり 事業所づくりをめざして 減災ネット レター

第7号

発行日・平成28年1月31日

発行者・向山 建生

山梨県韮崎市上祖母石725番地 TEL.0551-23-5656

URL <http://park12.wakwak.com/~gnetly/>

## 減災ネットやまなしの目的

特定非営利活動法人減災ネットやまなしは、生活小地域（自治会・班・組）の住民や事業所内の役職員・従業員が平素から自主的に減災の体制や規則を整え、自助力・共助力を高めておくことで、日々を安心して暮らせる地域社会の創造と、安心して仕事のできる職場環境の創造に寄与することを目的としています。（定款から）



ごあいさつ

特定非営利活動法人減災ネットやまなし 理事長 向山 建生

平素は特定非営利活動法人減災ネットやまなしの運営と活動にご理解とご支援を賜り、心からお礼申し上げます。

早いもので、当法人は平成二十一年度の設立から八年目を迎えます。

発足当初、三年ごとに区切り、「実績重視」、「役員の増加」、「行政の防災政策の一端を担う」という三つの課題を確認しながら、二度の区切りを踏まえ、その間に東日本大震災や御嶽山の噴火、関東大雪、北関東・東北豪雨など、多くの災害が発生したこともあり、それらを教訓に多くの関係者と研究と検証を重ねてまいりました。

特段、事務所を置く韮崎市とは、「いかに機能する自主防災組織をつくるか」という課題に対し、優先させた人材育成が成果を上げ、いよいよ地域減災リーダーとして活躍していただく方針が計画されます。

本広報第七号は、今年度に取り組みしました「住民と行政が協働する、住民主体の減災力の強いまちづくり」の特集としました。

これからも多くの方々と共に考え、行動し、減災力のある家庭づくり、地域づくり、職場づくりに取り組む所存です。

今後、ご支援とご協力を重ねてお願い申し上げます。

## 住民と行政が協働する

### 「住民主体の減災力の強いまちづくり」の目的

減災ネットやまなしの創立七周年と、総務省・消防庁主催「第十八回防災まちづくり大賞」日本防火・防災協会賞を受賞、さらに、平成二十六年二月の大雪を踏まえた災害時タイムラインの研究に対し、全国市町村国際文化研修所（JIAM）における講演を記念して、「住民主体の減災力の強いまちづくり」を主テーマに住民向け無料研修会を県内市町村に五市を募集し、最終的には以下の六市で開催されました。

#### ◎ 都留市

実施日：六月十八日（木曜日）  
テーマ：機能する自主防災組織  
「杜の都らぐいすホール」で自治会・自主防災組織の関係者二百三十名が参加されました。

#### ◎ 中央市

実施日：六月二十八日（日曜日）  
（二十九日（月曜日））  
テーマ：家庭を取り巻く地域の減災  
「玉穂総合会館多目的ホール」で自治会、自主防災組織、民生委員など、二日間に亘り多くの女性を含めた二百二十名が参加され、熱心に学習されました。

#### ◎ 南アルプス市

実施日：七月三日（金曜日）  
テーマ：機能する自主防災組織  
「習センター」あやめホール」

で自治会、自主防災組織、自主防災リーダーなど、金丸一元市長以下三百名が参加されました。  
（写真）  
普段から市



南アルプス市の研修会

民の防災意識の高さが覗える研修会でした。

#### ◎ 富士吉田市

実施日：七月八日（水曜日）  
テーマ：タイムラインと避難所の開設・施設利用合意

日本各地で火山活動が活発な折、市の防災担当の危機管理意識を高めたい意向を受け、富士吉田市民会館小ホールで市職員、学校関係者、福祉施設関係者など二百五十名が参加されました。

#### ◎ 甲斐市

実施日：七月十五日（水曜日）  
テーマ：減災の基礎知識

甲斐市の希望から、市役所大会議室での職員研修となりました。午前・午後の二度に分け、多発する災害への職員の心構えと、いざという時のための市民の減災について、総勢二百五十名が熱心に研修されました。

#### ◎ 甲州市

実施日：七月二十二日（水曜日）  
テーマ：機能する自主防災組織

甲州市は、減災ネットやまなしが希望して、研修に先立ち減災協定の締結を行いました。その後、自治会役員など七十名が研修されました。「減災力の強いまちづくり協定」は、平成二十一年度の韮崎市以来二市目です。



甲州市・NPO法人減災ネットやまなし 減災協定締結式



情報

◆ 韮崎市から

韮崎市は、平成二十三年度に全国に先駆けて、「減災力の強いまちづくり」宣言をしました。その「減災」の「自然災害は完全に防ぐことは出来ない。しかし、日頃の備えや準備によって、被害を最小限に抑えることは出来る。」という考え方に沿い様々な取り組みを行っています。

平成二十六年度は、「韮崎市自主防災組織連絡協議会」及び「韮崎市地域減災リーダー連絡協議会」を設立し、先進的な自主防災組織の活動事例の発表等を通し、市内の自主防災組織の情報共有を図る体制づくりを行い、また、平成二十七年度は、人材育成事業として、地域減災リーダー育成講座を高校生や地域防災の要でもある消防団向けに開催するなど、幅広い年代の方にご参加いただく中で、減災力の強いまちづくりを目指しています。

普段からの地域での活動や連携が防災活動の重要な要素です。自地域の防災訓練には必ず参加していただき、家庭では、非常用持ち出し品の準備や家具類の固定、家族で防災・減災についての話し合い等をしていただき、市民一人ひとりが災害に備えていただけますようお願いいたします。

韮崎市が公式認定した地域減災リーダーは、平成二十七年十二月末現在で、市の職員と高校生を除き市民二百名となりました。

◆ 国から「消防庁防災マニュアル」

消防庁のホームページに、防災マニュアルが、イラスト入りで災害種ごとに分かりやすく掲載されています。

例えば、大地震での「屋内での基本的事項」は、次のように書かれています。

- 突然大きな揺れに襲われたときは、まずは自分の身を安全に守れるように心がけましょう。
- 戸を開けて、出入り口の確保をしましょう。
- 棚や棚に乗せてあるもの、テレビなどが落ちてきたりするので、離れて揺れが収まるのを待ちましょう。
- あわてて戸外に飛び出さないようにしましょう。
- また、「寝室にいる時」に大地震では、

暗闇では、割れた窓ガラスや照明器具の破片だけがをしやすいので注意をしましょう。

● 枕元には、厚手の靴下やスリッパ、懐中電灯、携帯ラジオなどを置いておき、避難が出来る準備をしておきましょう。

● 寝室には、倒れそうなもの等をおかないようにし、頭の上にもものが落ちてこない所に寝ましょう。

など、表現を含めて参考にしましょう。

◆ 韮崎市特定地区総合防災訓練

韮崎市が指定した避難所を緊急時に利用する住民が主体となって訓練する特定地区総合防災訓練は四年目を迎え、平成二十七年八月三十日（日）に、韮崎市立韮崎小学校で、五丁目、下宿、中宿、二丁目、旭町、天神町、日の出町、富士見一丁目・二丁目・三丁目、高河原の十一地区合同で行われ、参加者は約五百名でした。また、この訓練に併せて施設提供側の韮崎小学校幹部と教育委員会、利用者代表の間で緊急時の施設利用合意に関するワークショップが行われ、後日、合意書が交わされました。

◆ 昭和町災害ボランティアセンター設置・運営訓練の指導

年々、韮崎市外からの研修依頼も増え、平成二十七年度は新たに、昭和町、山梨県危機管理

課、山梨県男女共同参画課、上野原市等から研修指導の委託がありました。

昭和町社会福祉協議会では、九月十六日（水）と十月三日（土）の二日間に亘り、災害ボランティアセンターの設置・運営の学習と実践を行いました。

◆ 上野原市減災マップ作成支援

山梨県危機管理課に委託され、十月二十五日（日）に上野原市中部の住民を対象とした減災マップづくりを指導しました。機能する自主防災組織の三種の神器の一つである「減災マップ」は、自地域の安全性や共助力を高める有効なツールであり、参加されたみなさんはグループ編成し、地域特性やハザードマップを参考に作成に取り組みました。

◆ 甲州市の避難所開設指導

山梨県危機管理課に委託され、十一月二十日（金）と十一月二十七日（金）の二日間に亘り、甲州市塩山北公民館を避難所とする五自治会を対象とした、地域の減災の学習と避難所開設のワークショップを行いました。





活動

◆ネパール地震募金活動

四月二十五日（土曜日）に発生した地震により大きな被害を受けたネパールは、山梨県や韮崎市の山岳連盟などと深く関係することから、市内各団体に呼び掛け、五月七日（木曜日）から十日（日曜日）までの四日間、韮崎市役所エントランスと韮崎市民交流センターニコリのエントランスで募金活動を実施し、日本赤十字に届けました。

◆市制祭で減災だんごの販売

当該NPO法人発足以来参加している韮崎市市制祭が、十月十一日（日曜日）に開催されました。今年は、例年の綿菓子販売、冷水麦茶無料提供、啓発ティッシュの配布に加え、新たに『減災だんご』を販売しました。みたらし百五十本、餡子六十本が瞬く間に完売しました。



◆共同募金会の募金活動

毎年恒例の共同募金活動が十月二日（金曜日）にJR甲府駅南口で行われ、牛丸修副理事長、小澤一正理事、小川龍馬監事が募金活動に協力しました。

◆BCCPトップセミナー

やまなしBCCL・LCP研究普及プロジェクトは、平成二十七年十一月十八日（水曜日）に山梨県防災新館で『第二回トップセミナー』を開催しました。およそ百名が参加され、今回は、ケアセンター風間、金精軒製菓、韮崎市の事例が発表されました。

取材ノート

平成二十八年一月二十日（水曜日）、韮崎市役所で総務課の五味秀雄一課長にインタビューしました。

Q 今日、よろしくお願ひします。

A まず、東日本大震災以降の韮崎市の防災政策と変化について、教えていただけますか。

A 正直に申しますと、以前の減災意識は希薄でしたが、減災ネットやまなしが提唱する「自助・共助・公助」の重要さを実感しました。そのために減災リーダーの育成を重視し、現在三〇〇名余りを認定しています。また、昨年度は減災リーダーと自主防災組織の連絡協議会を発足させ、組織的な推進を図っています。

Q 今後の韮崎市の取り組みについて、教えてください。

A 今後は、「機能する自主防災組織づくり」が肝要と考えています。そのために減災ネットやまなしと協働して減災リーダーの育成を更に推し進め、併せて先の二つの協議会を核とした訓練や整備を充実させたいと思います。

Q 指定避難所と、そこを利用する自治会を特定地区とした防災訓練は、成果がありますか。

A 十分な成果を感じています。地区には特性や事情があり、色々な課題も見えてきます。やはり、具体的に実施していかないと、次の段階に進みませんね。

Q 最後に、市の立場から市民へのお願ひなどをお聞かせいただけますか。

A 災害時の対応について、日頃から災害への意識を持続することは難しいことと思われまます。そこで、班や組、自治会などで普段

から話し合いの機会を持ち、自主的に訓練して自助と共助を確認し合ってほしいと思います。

ありがとうございました。

認定した減災リーダーの活用を含め、今後も減災ネットやまなしの活動に期待していただいていることがわかりました。今後も市と協働して地道な活動を続けていきたいと思っています。



◆第七回減災フォーラム

○日時 平成二十八年二月二十一日（日）

午後一時半から

○場所 東京エレクトロン韮崎文化ホール

小ホール

○プログラム

・セレモニー

・第一部 経過報告と今後の計画

・第二部 基調講演

演題 「あれから5年、

今、私たちに求められること

―東日本大震災の教訓―

東北大学災害科学国際研究所

所長・津波工学教授

今村 文彦先生

○参加費 無料

○申込・問合せ

韮崎市役所企画財政課  
または 総務課防災交通担当

話題

季節の便り

○父の記録を掘り起こすと

■ 蕪崎市出身の大村智博士がノーベル賞を受賞した。とてつもない偉業である。多くの市民が感動に震えた。小学一年生と二年生の孫も心を躍らせている。子どもたちは大先輩から夢と感動をいただいた。博士の親しみやすい人柄に、知人のような錯覚になるが、残念ながら個人的な面識はない。

ところが、フト感じるものがあり、書庫の奥から父の記録を出して紐解いた。父は東京の師範学校を出て蕪崎小学校で初めて教壇に立ったが、教師の待遇改善を求め教職員組合で東奔西走した。その後、再び学校現場に復帰したのが昭和二十四年四月、蕪崎中学校とある。しかし、しばらく教育現場から離れていたことから、その年は山梨大で履修し、二十五年四月から教壇に立った。ところがまた、二十六年四月に教職員組合に駆り出され、二十八年四月に再び蕪崎中学校に戻り、その後、三十四年四月に山梨県教育委員会に異動するまでの六年間、蕪崎中学校で教鞭をとったとある。

一方、大村智博士は、昭和二十三年四月に蕪崎中学校に入学し、昭和二十六年三月に卒業している。つまり、大村博士が中学生の時、父は教師で同じ場にいたことになる。

この事実を確かめたく、大村博士の同級生に尋ねると、「確かに、オヤジさんが先生でいたよ」と言うのである。やはり、人は必ずどこかで繋がっているもので、新たな感動に浸っている。

(平凡男の投稿)



役員からレポート

● 東日本大震災・・・

あれからもう、四年半が経過

平成二十七年九月十一日から二泊三日で、四年半前の三月十一日に、三陸沖を震源としたM9の巨大地震で大津波の被害を受けた宮城県女川町、石巻市を訪問して来ました。その年私は、五月は三日間、七月に二日間、九月には二日間のボランティアに参加しました。津波の被害の石巻市街地の瓦礫の片付け、排水溝の砂、泥上げ作業が主でしたが、側溝には泥に飼料や汚物が混ざり悪臭とハエ等で文章には書き表現が出来ない状況でした。まるで戦争の跡の様な惨状となった市内全域でしたが、全国各地から企業やボランティアの団体、個人が集まり、現地の行政の方々の指導下で黙々と作業を行いました。その後は、毎年一〜二回は女川町、石巻市、南三陸町、気仙沼市、釜石市、大船渡市等々の被害状況や復興状況を見て廻りました。

今回は山梨から四名参加し、女川町の復興後を視察しました。商工会の職員の青山指導員の天津波の危機一髪の体験や、須田 町長さんの復興に懸ける女川町のまちづくりについて、また、すっかり変わった新しい女川町全域や駅前施設の青写真を拝見して、これから新しく変貌する女川町に大きな期待を持ちたいと思います。地域の方々も元気が出ていま

した。

山梨県内の皆様と女川町、石巻市の復興状況の視察に行けたらと思います。

理事 上野政巳

● 会員募集のご案内

特定非営利活動法人減災ネットやまなしは、ともに「減災力のある県土づくり」に取り組んでいただける会員を募集しています。

入会金はありません。

年会費 ○個人会員 五千円

○法人会員 一万円

○賛助会員 三万円

申込は、当該法人事務局へ  
電話・FAX 05511-2315656

● 編集後記

減災リーダーの育成も四年目を終え、一般市民で二百名が認定されました。この減災リーダーが、いつ起こるか分からない災害に備え、訓練し、機能する自主防災組織のメンバーとして地域の頼りになる存在となることを期待しているところです。

(千野良子)

平成27年度役員紹介

- 理事長 向山 建生
- 副理事長 滝田 久
- 副理事長 千野 良子
- 副理事長 嶋田 均
- 副理事長 栗林 政樹
- 副理事長 牛丸 修
- 理事 武井 伸江
- 理事 内藤 久夫
- 理事 上野 政巳
- 理事 田村 和彦
- 理事 小澤 一正
- 理事 皆川 孝
- 理事 向山 清彦
- 理事 雨宮 正志
- 理事 岩村 栄比古
- 理事 皆川 諄次
- 理事 今村 正人
- 監査役 小川 龍馬
- 監査役 吉岡 克美

内科・小児科・産婦人科  
中島医院

診療時間 ■午前 8:30~12:00 ■午後 2:30~6:00  
■日曜・祭日・土曜日午後・休診  
塩崎駅前 ☎ (0551) 28-2181  
FAX (0551) 28-5929